

宇宙につながる麻布



平成 21 年：政策研究大学院大学の卒業式
世界中から学びに来る学生達、背景は現在も保存されている東京大学生産研究所の建物の一部。



平成 21 年：国立新美術館



写真提供：JAXA/ISAS

六本木にてロケット研究が行われていた当時の国産ロケットカップ(K-8)。
この K-8 型は各種の宇宙観測を可能にし、電離層の中の昼夜のイオンの分布などを世界で初めて観測するなど、本格的な観測ロケットとして世界の注目を浴びた。



(右)平成 21 年：国立新美術館から眺める空(宇宙)
当時のロケット研究者も同じ空を見上げていたことだろう。

開発メンバーの集合写真

中心に日本の宇宙開発・ロケット開発の父糸川英夫博士の若かりし頃の姿。



写真提供：JAXA/ISAS



平成 22 年：JAXA 相模原キャンパスに保存されている、M-V ロケット。
小惑星探査機「はやぶさ」が打ち上げられたロケットとしても有名。

宇宙につながる麻布

現在の政策研究大学院大学や国立新美術館のある場所には、糸川英夫教授がペンシルロケット等の研究・開発を行っていた東京大学生産技術研究所が設けられていた。実際の燃焼試験設備等は千葉実験所として西千葉に置かれていたが、生産技術研究所に所属する教授陣の研究室は六本木にあった。

当時、宇宙研究部門は組織化されておらず、様々な研究室から有志が参加して実施されており、実験データの研究会や試験の実施に係る打ち合わせ等は六本木で行われていたようだ。

昭和 37 年(1962 年)から、昭和 39 年(1964 年)に東京大学駒場キャンパス内に「東京大学宇宙航空研究所」が設置され、日本が名実ともに宇宙開発の拠点となるまでの 2 年間、主だった関係者は六本木の地に集まり、研究に取り組んでいた。

今なお流れる麻布の水脈

①青山橋下



平成 23年(2011年)

⑭がま池



平成 23年(2011年)

⑮水路



平成 23年(2011年)

⑯宮村池



平成 23年(2011年)

⑱芋洗坂



平成 23年(2011年)

②根津邸支流合流地



平成 23年(2011年)

⑰欄干



平成 23年(2011年)

⑲六本木高校脇



平成 23年(2011年)

③筈坂下



平成 23年(2011年)

④筈橋



平成 23年(2011年)



⑤堀田坂下



平成 23年(2011年)

⑦広尾橋



平成 22年(2010年)

⑨本村いきいきプラザ脇



平成 23年(2011年)

⑪薬園坂緑地



平成 23年(2011年)

⑬一之橋



平成 22年(2010年)

⑥広尾学園裏の水路跡



平成 23年(2011年)

⑧天現寺橋(筈川合流口)



平成 22年(2010年)

⑩衆楽園下



平成 23年(2011年)

⑫四之橋



平成 22年(2010年)

⑬一之橋



平成 24年(2012年)

麻布から見た富士山



平成 24年(2012年)：六本木ヒルズ展望台より見た富士山。

平成 24年(2012年)：新富士見坂

かつては、麻布の台地からはるか西に富士山を望むことができた。ビルやマンションが建ち並ぶ現在、もはや街中からその姿を拝むことはできず、「富士見坂」という坂の名だけが残されている。



昭和 50年(1975年)：富士見坂

平成 21年(2009年)：富士見坂

右の絵は、高速道路が建設される前の霞町周辺(西麻布一・三丁目一帯)の街並みと、そこから眺めた富士山の姿を思い出しながら描いたもの。

下の写真は麻布十番三丁目にある建物の12階からの眺め。



平成 24年(2012年)：麻布から見た富士山(3点とも)。

麻布で見た金環日食



午前 7時 29分



午前 7時 35分



午前 7時 43分

平成 24年 5月 21日、日本南岸沿いの広い範囲で金環日食が見られた。東京都内も中心帯に当たり、雲の合間を通して、リングになった太陽を観望することが出来た。

リングになる最大食分は 7時 34分 30秒頃。この瞬間を見ようと、有栖川宮記念公園にも早朝から多くの人々が集まった。



金環日食をひと目見ようと、有栖川宮記念公園に集まった人々。



太陽の約 87%が月に隠されると、夕方のような暗さに。それに反応して園内の照明が灯った。



太陽がリング状になると、三日月状になった「木漏れ日」が地面に沢山写し出された。



資料: NAOJ

肉眼での太陽(日食)観測の際には必ず「日食グラス」を使ってください。太陽は決して直接肉眼で見えてはいけません。失明の危険があります。

麻布で見られた皆既月食



麻布郵便局付近からは東京タワー上空に皆既月食が見えた。



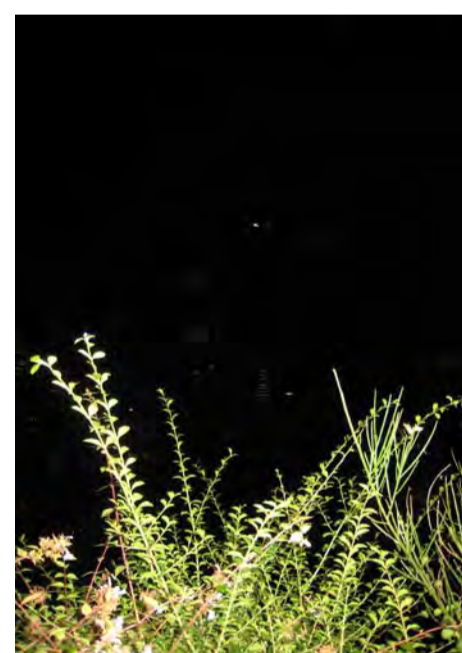
皆既後に現れた月



六本木ヒルズで撮影する人々



麻布地区総合支所3階より 左から「18:19頃」⇒「18:31頃」⇒「18:55頃」



六本木ヒルズより「18:55頃」

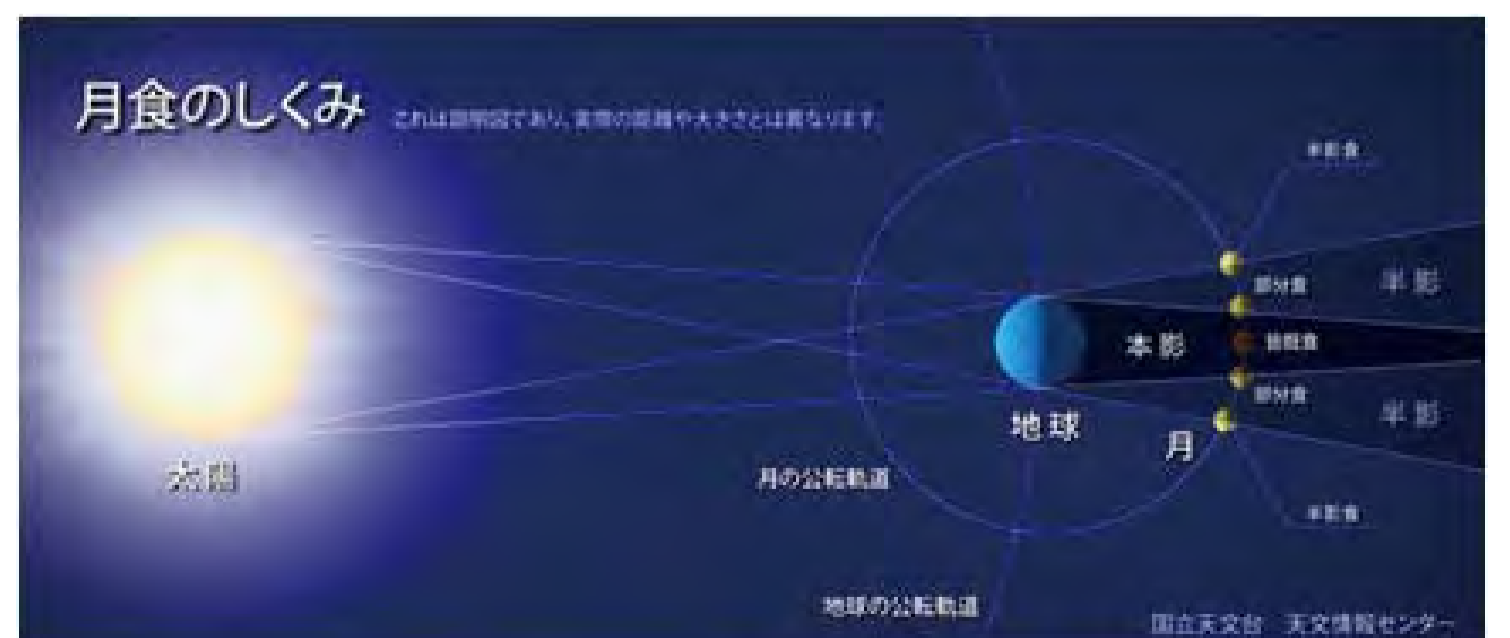


飯倉片町付近から見物する人々

平成26年(2014年)10月8日、曇っていなければ、日本全国で皆既月食が見えた。麻布では、皆既月食直前に曇り、皆既月食終了直後に晴れ間が出て撮影ができた。

皆さんご存知の通り、月食は太陽と地球と月が一直線上に並んだ日、ちょうど満月の時に起こる。太陽の光を地球が受けると、その反対側に地球の大きな影ができ、その影の中を月が通り抜けるときに見られるのが月食。影の中心付近を通り過ぎると皆既月食、中心から離れた影の縁付近を通り過ぎると部分月食として見られる。満月から次の満月まで約29.5日、ほぼ毎月起こるはずだが、太陽の通り道(黄道)と月の通り道(白道)とは約5度傾いているため、毎月起こる事はない。

このパネルに掲載されている写真について／撮影：平成26年(2014年)10月8日
資料提供：国立天文台 天文情報センター



移築されて今も残る観測機器(東京天文台)



昭和35年頃:東京大学 天文学教室と日本経緯度原点

麻布にあった東京天文台が三鷹に移転した後、東京大学天文学教室が設置された、写真⑩番の部分に建つ碑(左下写真)が現在、経緯度原点の場所と考えられる。手前側はアフガニスタン大使館になっている。



平成25年(2013年):日本経緯度原点

現在の経緯度原点、整備され素敵な空間が広がっている。東京都港区麻布台2-18-1



昭和35年頃

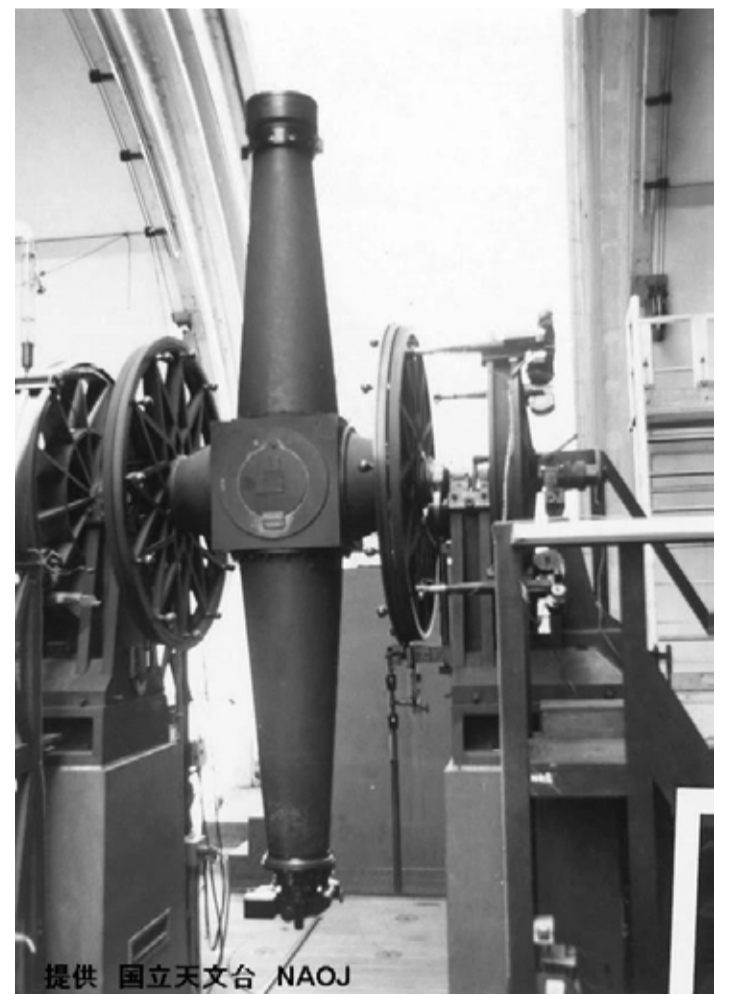
この二つの柱の上に、観測機器が設置されていた。設置されていた観測機器は、関東大震災で被害を受けたが当時、東京天文台で使われていた機器は今でも三鷹の国立天文台に大切に保存され一般に公開されている。



ゴージェ子午環
1903年フランス製



レプソルド子午儀室



レプソルド子午儀、国立天文台初の国の重要文化財
1880年ドイツ製

東京天文台は明治21年(1888年)、麻布飯倉の旧海軍観象台の地に設立。初代の台長として寺尾 寿が任命された。明治23年(1890年)から子午儀室をはじめ太陽写真儀室、赤道儀室など次々と増築された。

その後、市街化が進み観測条件の悪化が進み、大正6年(1914年)北多摩郡三鷹村大沢(現在の三鷹市)に移転が始まり、大正13年(1924年)に一段落した。その後の建物・観測機械は東京大学理学部天文学教室の所属となり学生の講義・実習にあてられた。昭和20年(1945年)、戦災で焼失。その跡にバラックが建てられて、昭和35年(1960年)の本郷移転まで、この地に存続した。

日本経緯度原点は明治25年(1892年)に東京天文台の経緯度の観測台である子午環の中心に定められた。

その後、大正12年(1923年)の関東大震災で子午環が崩壊したため、昭和36年(1961年)にその位置に金属標を設置し日本経緯度原点を再現した。昭和24年(1949年)、原点数値は測量法施行令で規定され、わが国における経緯度の基準として測量、地図作成等に使用されている。

なお、日本経緯度原点は平成23年(2011年)3月11日に起きた東北地方太平洋沖地震により真東に27cm移動したことが記され、その数値は平成23年10月21日に改定されました。

(経度:東経 139° 44' 28" .8869、緯度:北緯 35° 39' 29" .1572、方位角:32° 20' 46" .209)

写真提供:国立天文台(NAOJ)、資料提供:国土交通省国土地理院(GSI)

麻布の緑 (麻布地区の公園と街路樹)



六本木一丁目付近



麻布台付近



六本木一丁目付近



毛利庭園



六本木ヒルズ付近



毛利庭園



有栖川宮記念公園



有栖川宮記念公園



公開空地(元麻布)



都立青山公園



都立青山公園



都立青山公園(ヘリポート脇)



天真寺(南麻布)

Check out the sound "麻布の森のコンサート" in Pioneer Global Sounds
<http://pioneer.jp/soundlab/globalsounds/?d=4008>



Check out the sound "Arisugawa Park " in Pioneer Global Sounds
<http://pioneer.jp/soundlab/globalsounds/?d=3625>



麻布地区の音は、パイオニア株式会社のご協力により、Pioneer Sound Lab.に投稿、セレクトされた音風景からお届けしています。
Pioneer Sound Lab. (Pioneer Global Sounds): 音を聴いて、感じて、表現するサウンドエンタテインメントスペース、それが"Sound Lab."です。
あなたも"Sound Lab."を通じて、音を持つその味わい深さを感じてみませんか？
■Pioneer sound lab. http://pioneer.jp/corp/crdl_design/soundlab/
■Pioneer sound lab Facebook. <https://www.facebook.com/pioneer.soundlab/>
■Global Sounds iPhoneアプリ. http://pioneer.jp/product/soft/iapp_globalsounds/jp.html

このパネルに掲載されている写真について/写真撮影:平成27年(2015年)

麻布の緑(名勝・巨木等)



有栖川宮記念公園のいちよう



このパネルに掲載されている写真について/写真撮影:平成27年(2015年)

まちの花



ムラサキシキブ



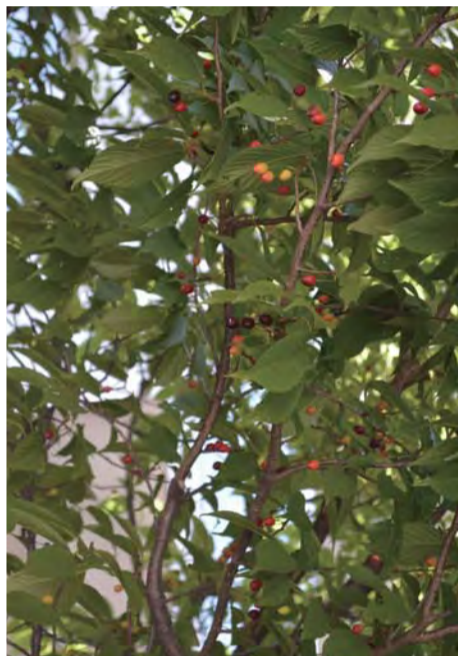
ムクゲ



ベニバナトチノキ



ソヨゴ



桜の実



トサシモツケ



バラ



葉ボタンの花



アジサイ



チェリーセージ



黄菖蒲



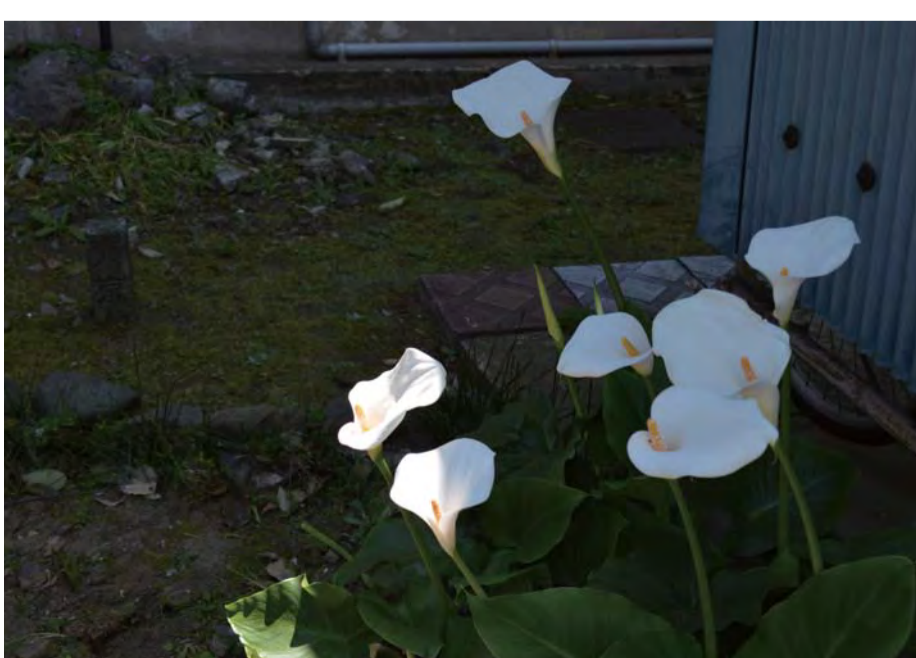
テイカズラ



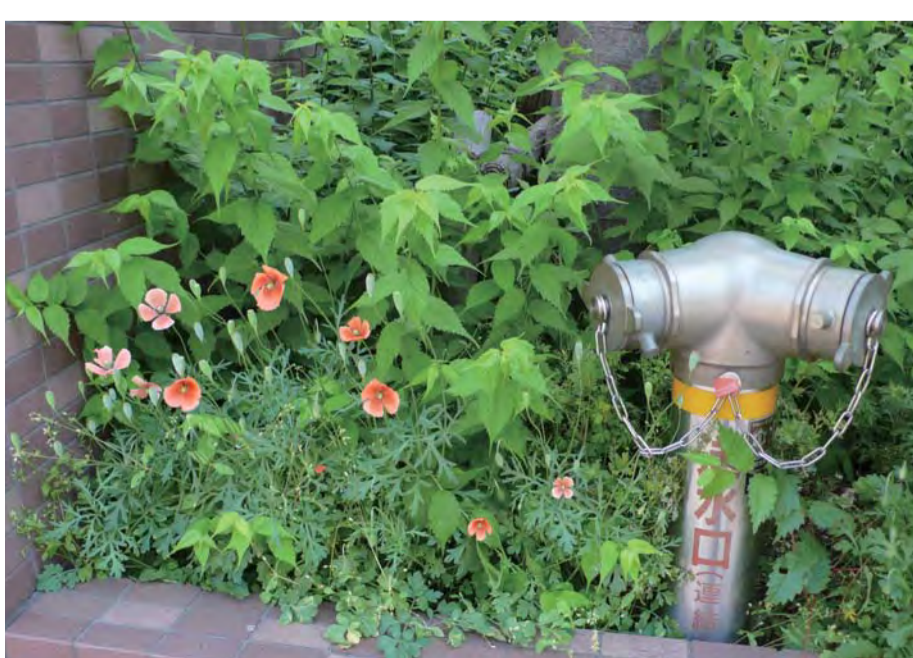
ムラサキツメクサ



カルミア



カラー



ナガミヒナゲシ

麻布未来写真館では、メンバーで年に数回テーマを決めまち歩きを実施している。朝、テーマにあわせた集合場所に集まり、計画したルートでカメラ片手に歩いて行く。皆で歩き回り撮影をしていると、テーマ以外にもメンバーが興味をひかれた「建物・石・彫刻・いきもの・植物」などの写真が大量に集まった。そんな写真を持ち寄り、組写真に再構成した。このパネルでは、まち歩きで見かけた、花を集めた。

このパネルに掲載されている写真について／写真撮影：平成27年(2015年)

いきもの



ダイサギ



コサギ



アオサギ



カルガモ



ヒキガエル



カワウ



セミの羽化



ツマグロヒョウモンのオス



ツマグロヒョウモンとその幼虫



カルガモの親子



カワセミのプロポーズ



ボラの大群



すずめの学校



ナミアゲハ



メジロ

このパネルに掲載されている写真について／写真撮影：平成23年(2011年)～平成27年(2015年)

麻布の緑の壁



六本木七丁目



元麻布三丁目(3点とも)



六本木七丁目



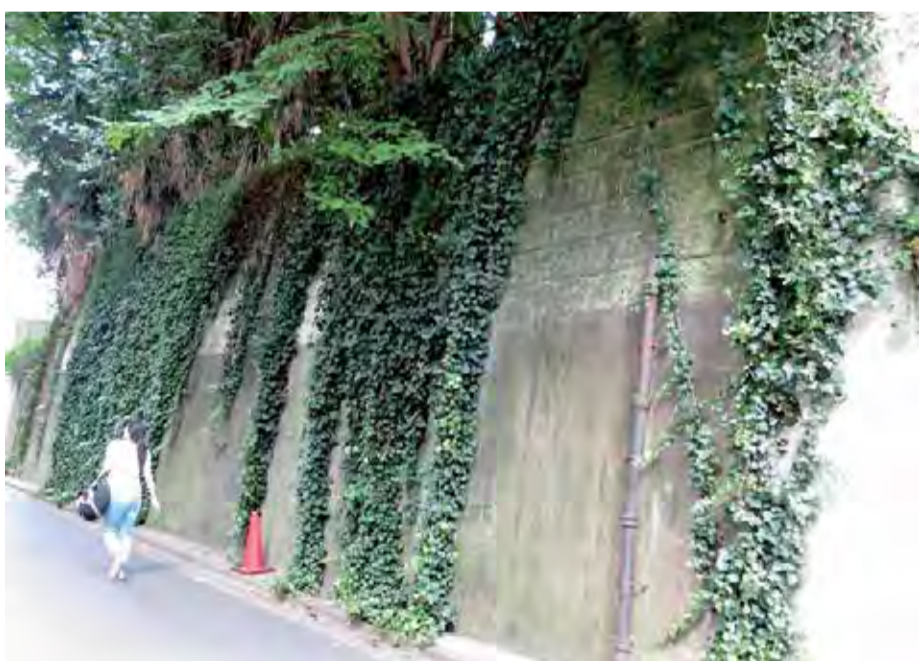
六本木五丁目(麻布図書館の壁面緑化*)



六本木六丁目(六本木高校)



六本木五丁目(麻布保育園)



西麻布三丁目



西麻布一丁目(EXシアター六本木)



西麻布二丁目



西麻布四丁目(左:2011年、右:2016年)

西麻布三丁目

*壁面緑化は、文字通り建物などの壁を、草や木で緑化すること。多くの場合、垂直の壁に植物を植えるための装置が使われ、時々メンテナンス(手入れ)が行われる。屋上緑化と同様に、断熱性の向上、大気の浄化、輻射熱の軽減など、さまざまな効果があるようだ。また、屋上緑化に比べると人目につきやすいので、美観の向上にも役立つ。麻布では少しずつ壁面緑化が増え、区の施設でも、近年あいついで採用されている。

このパネルに掲載されている写真について/写真撮影:平成28年(2016年)

麻布の実り



カキ:六本木四丁目



ザクロ:元麻布二丁目



ユズ:麻布台一丁目



パティオ十番

西麻布三丁目



キンカン:西麻布一丁目



オリーブ:六本木六丁目(六本木ヒルズ)



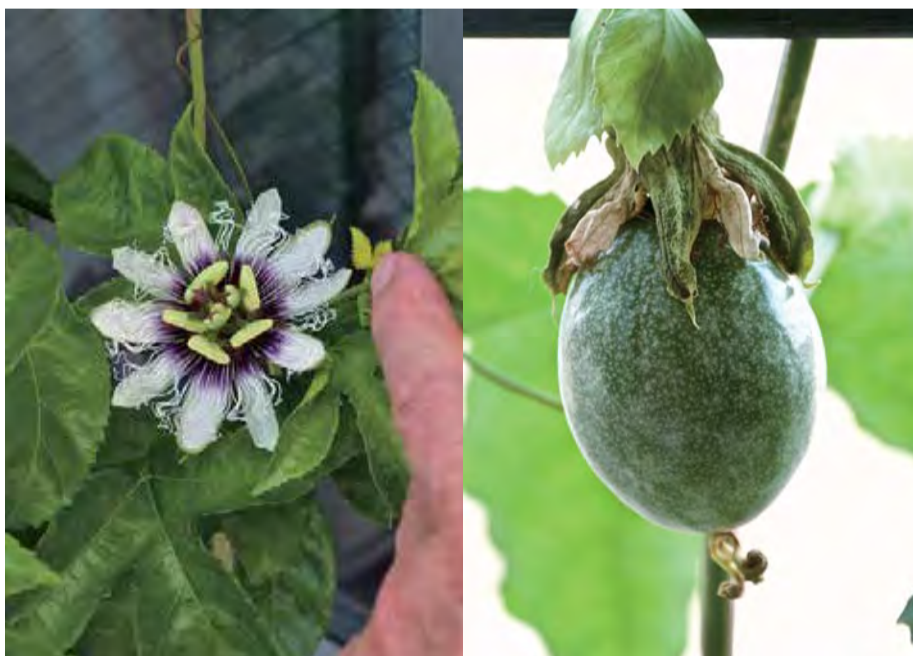
ミカン:西麻布三丁目



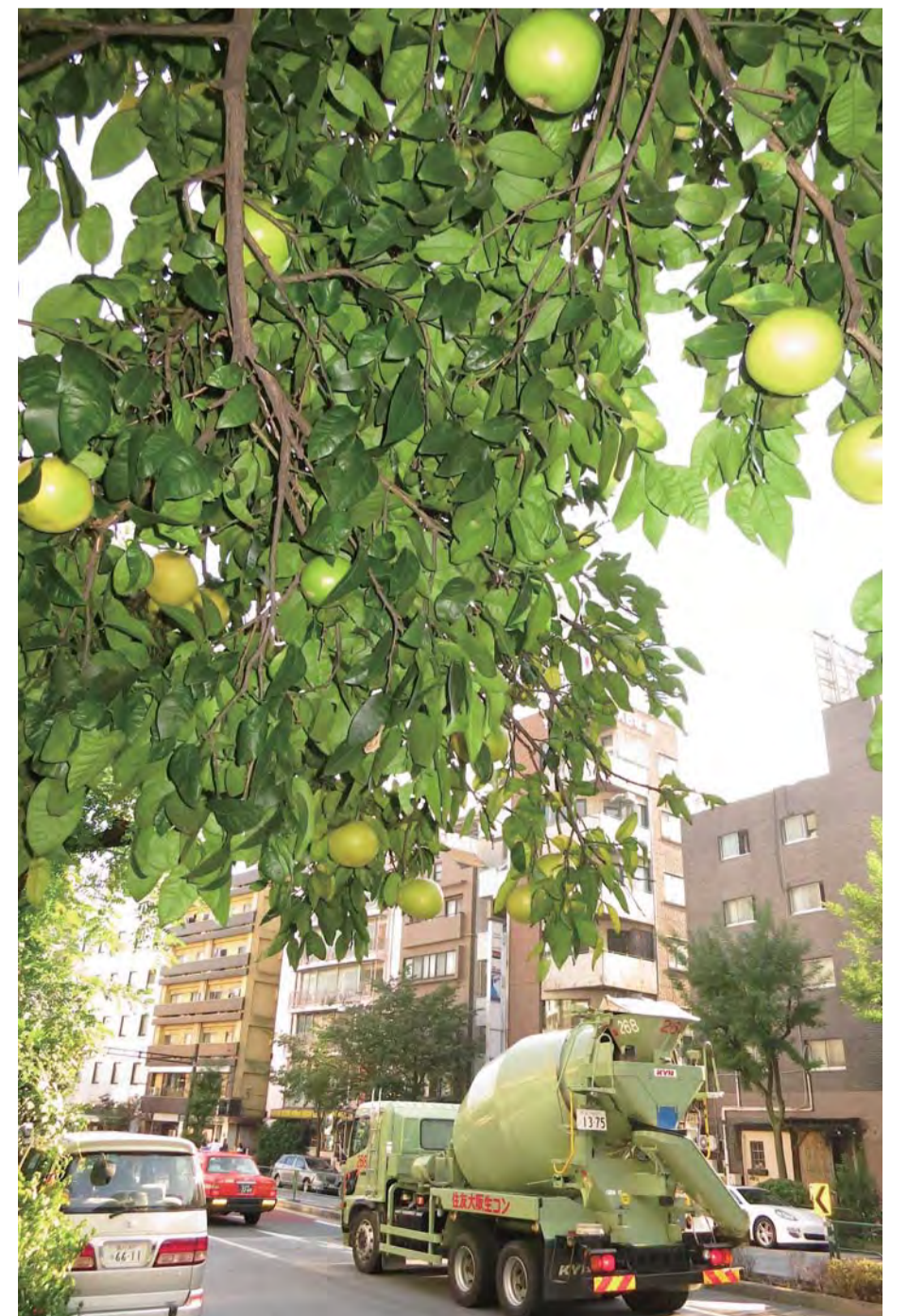
ホオズキ:久國神社 ブドウ:元麻布三丁目



カキ:西麻布三丁目



パッションフルーツ:南麻布二丁目



グレープフルーツ:六本木五丁目

麻布はビルと高速道路がひしめくコンクリートジャングルだと思っている人も少なくないようだ。しかし、幹線道路から外れて脇道に入ると、まだまだ緑が残っている。

秋、そうした街を歩いていると、あちこちで色づいた植物の実を見かける。カキや柑橘類にまじって、思わぬところでブドウやザクロ、オリーブなどを目にする。カキやブドウの熟した甘い実は、蝶と野鳥のお気に入りだ。

このパネルに掲載されている写真について/写真撮影:平成28年(2016年)